

今 日出海（こん・ひでみ）

1、プロフィール

多芸多能の人。『天皇の帽子』で直木賞受賞。痛快な人物を主人公とした新聞小説を書いて流行作家となる。映画監督、芝居の演出、フランス文学の翻訳もある。初代文化庁長官。

<生没>

1903(明治 36)年 11 月 6 日 ~ 1984(昭和 59)年 7 月 30 日

<代表作>

『山中放浪』『天皇の帽子』『三木清における人間の研究』『迷う人迷えぬ人』『まだまだ夜だ』『海賊』

<青森との関わり>

父武平、母綾ともに弘前の人。その三男。今東光は長兄。

2、作家解説

小説家、評論家、演出家。函館市生まれ。今東光の弟。東京大学仏文科卒業。大正 14 年劇団「心座」、昭和 5 年舟橋聖一らと劇団「蝙蝠座」を起こして演劇活動をする。一方「文芸都市」「作品」「行動」「文学界」等の同人となり、多くの評論、随筆を書く。また、ジードの『地の糧』『二つの交響曲』の翻訳を刊行。ほかに映画の評論、監督など幅広い活動をする。

16 年日米開戦とともに徴用され、陸軍報道班員としてフィリピンに従軍、『比島従軍』などを書く。19 年再度フィリピンに渡り九死に一生を得て帰国。戦後 24 年、従軍体験記を『山中放浪』に、25 年には、一緒に従軍して知った哲学者三木清を「三木清における人間の研究」等を書く。短編『天皇の帽子』により昭和 25 年上半期第 23 回直木賞を受賞。他に人物記、随筆など。多趣多芸多才、機知縦横の明快な作風で知られる。

昭和 20 年から 21 年まで文部省芸術課長を勤め、国民行事の一つとなった芸術祭を創始する。43 年、文部省に文化庁が創設されるに伴い初代長官に就任、47 年退官するまで、広い知識と高い識見により卓抜な行政手腕を示し、国民文化の向上に大きく貢献した。殊に伝統文化の保存と地方文化の育成に功績をあげた。

3、資料紹介

○『山中放浪』

図書(中公文庫)

1978(昭和 53)年 12 月 10 日

150mm×105mm

昭和 20 年 4 月、アメリカ軍に包囲されたフィリピン・ルソン島の山中を主人公が敗走する様相を描く。長大作ではないが、豊富な要素と体験に満たされている。「あとがき」に日記帳 4 冊を基にまとめたものとある。戦争のもつ悲惨さを伝えて迫力がある。